

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、高校生の理科や科学に対する意識や関心を把握することを目的として実施した。調査では高校生の理科の勉強への興味や実態などを取り上げ、理科の学習への意欲形成と科学に対する興味・関心にかかわる要因を探った。調査は質問紙を用いて、日本、米国、中国、韓国の4か国の高校生を対象に同時に実施した。

なお、日米中韓の青少年に関する国際比較調査は、これまで（財）日本青少年研究所が実施してきたが、当該法人が平成25年8月31日に解散したことに伴い、国立青少年教育振興機構が調査を継承して実施した。

2 調査内容

- ・自然や科学に関する興味や関心
- ・自然や科学に関する学習
- ・科学や社会に関する問題などへの関心
- ・科学や技術に対する評価
- ・自然と人間の関係についての考え
- ・理科の観察や実験の好き嫌い
- ・理科の自由研究
- ・理科に関する意識

3 調査方法等

調査期間、調査方法等は次のとおりである。

	日本	米国	中国	韓国
実施機関	国立青少年教育振興機構	BuzzHunter(委託)	中国青少年研究センター	韓国青少年活動振興院
調査期間	2013年10～11月	2013年9～11月	2013年10～12月	2013年10～11月
学校数	23	14	32	20
調査地域	北海道 宮城県 福島県 千葉県 東京都 静岡県 新潟県 愛知県 広島県 香川県 愛媛県 福岡県	Kansas City, Kansas Jersey Shore, Pennsylvania Chicago, Illinois Liberty, Missouri Thousand Oaks, California Charlotte, North Carolina Indianapolis, Indiana Idaho Falls, Idaho Los Angeles, California Cleveland, Ohio Eugene, Oregon Albuquerque, New Mexico Tulsa, Oklahoma	北京市 黒竜江省哈爾濱市 湖北省武漢市 河南省鄭州市 陝西省漢中市 浙江省寧波市 福建省福州市 貴州省貴陽市	ソウル特別市 釜山広域市 大邱広域市 光州広域市 大田広域市 京畿道 忠清南道 全羅北道 慶尚北道 慶尚南道
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
サンプル数(票)	1,937	1,308	1,915	1,293
回収率(%)	97.9	67.1	99.7	99.8

4 調査対象者の基本属性

調査対象者は次のとおりである。

		日本		米国		中国		韓国	
		人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
性別	男	924	47.7	585	44.7	828	43.2	651	50.3
	女	1,004	51.8	682	52.1	1,019	53.2	642	49.7
	無回答	9	0.5	41	3.1	68	3.6	0	0.0
学年	高1	687	35.5	626	47.9	714	37.3	642	49.7
	高2	651	33.6	426	32.6	640	33.4	651	50.3
	高3	593	30.6	219	16.7	561	29.3	0	0.0
	無回答	6	0.3	37	2.8	0	0.0	0	0.0
実数(人)		1,937	100.0	1,308	100.0	1,915	100.0	1,293	100.0